

# PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

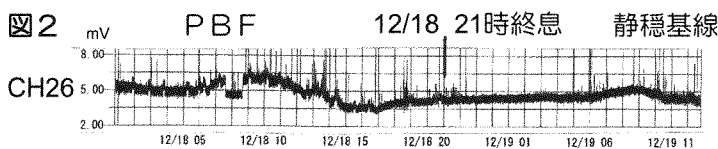
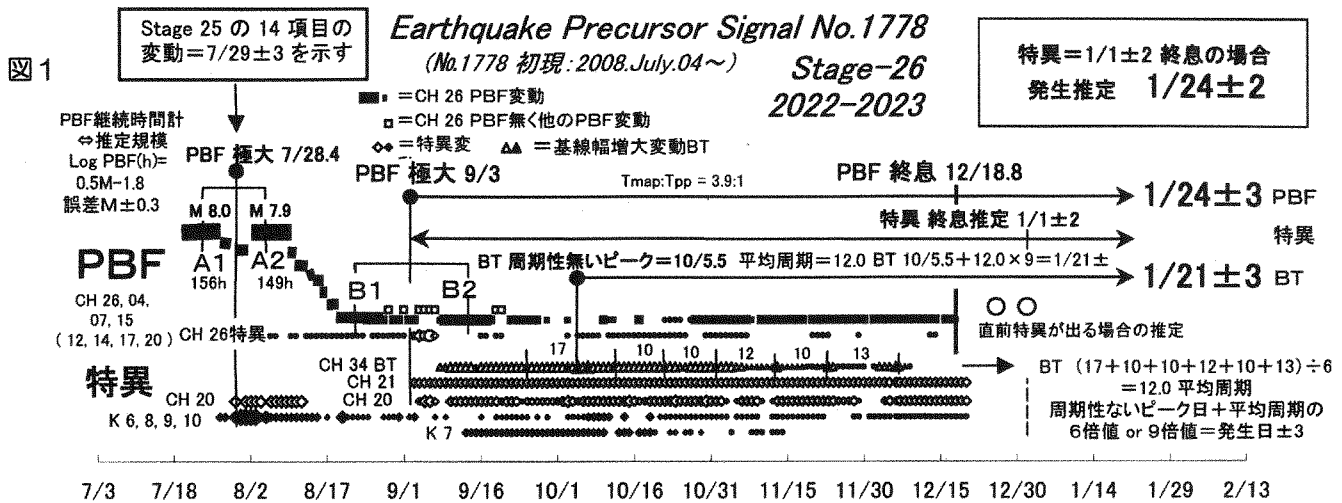
## 続報 No.346

2022.12/20 (火曜) 15:30 発表

ハヶ岳南麓天文台 串田 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 電話 0551-38-3987 FAX 0551-38-4254

※PHP新書「地震予報」にNo.1778前兆について記したため続報公開。No.1778前兆は27年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動。しかし首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までは数日の可能性が高い。火山噴火も検知可能。これらのNo.1778前兆以外の他の地震前兆については本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信の観測情報でのみ公開しています。本観測をご支援下さる方に前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。

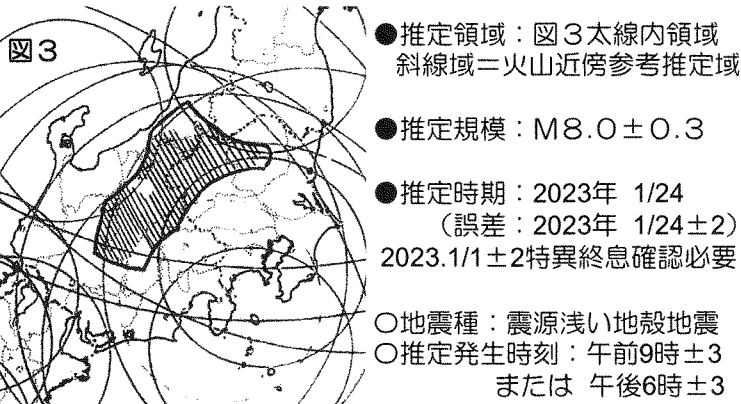
## PBF 12/18 終息！ 現在迄42時間静穏継続 → 1/24 (誤差±2) 発生の可能性



前続報では、BT (CH34の基線幅増大変動) の周期的変化から、2023.1/6±3 発生の可能性を報告致しました。

しかし、12/13時点でPBF変動が継続したことから、2023.1/18以降発生の可能性が示唆され、BTの周期的変化を再検討しました。図1のBTの▲印は、小ピーク認識です。10/3.10/5.10/7の3日間小ピークがあり、今まではいずれかの2つの中間を周期性ないピーク認識していましたが、この3日間を周期性ないピークと再認識し、中心の10/5.5を周期性ないピーク認識。少々BTが弱い時間帯がありますが、9/25を周期性ピーク認識として加えますと、平均周期は12日となります。10/5.5に平均周期12.0日の9倍値を加算しますと、2023.1/21±3 発生の可能性が示唆されることとなります。この再認識が正しい場合には12/19までにPBF変動が終息する可能性がありました。

そのハヶ岳のCH26-PBFが12/18の夜21時前に終息致しました(図2参照)。本日現在まで既に42時間



- 推定領域：図3太線内領域  
斜線域=火山近傍参考推定域
- 推定規模：M8.0±0.3
- 推定時期：2023年 1/24  
(誤差：2023年 1/24±2)  
2023.1/1±2特異終息確認必要
- 地震種：震源浅い地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時±3  
または 午後6時±3

静穏基線が継続し、PBFの再出現は認められません。このまま静穏基線が継続の場合は終息した可能性が大了。9/3.0-PBF極大~12/18.8-PBF終息の関係からは、2023.1/24発生の可能性が推定されます。前述のとおりBT周期的変化からは1/21±3発生の可能性が示唆されますので、1/24は誤差内です。1/24に対応地震発生の可能性が考え易い。

図1の○印2つは2023.1/24発生となる場合で、PBF変動に直前特異が出現する場合の推定時期です。最初の○は12/25±2で7/28.4-PBF極大に対する直前特異。2つ目の○は1/1±2で9/3-PBF極大に対する直前特異です。直前特異が必ず出現するとは限りませんので、あくまでも参考です。1/24±2発生が仮に正しい場合は、特異変動は2023.1/1±2に終息する可能性が計算されますので確認致します。

※推定内容根拠はNo337を参照下さい

C) Copyright 2022 YSBO ハヶ岳南麓天文台